

ウィークリー けいざい

※毎週金曜日に掲載します

Yamaguchi

地銀店舗改革 急ピッチ

地方銀行の店舗が、様変わりしている。空きスペースを学習塾に貸し出すなど従来のイメージを覆す店舗が現れ始めたほか、デジタル技術の活用による業務効率化も進む。店舗の魅力や利便性を上げ、地域に根ざす銀行として存在感を高める狙いだ。

(丸谷一郎)

■有効活用

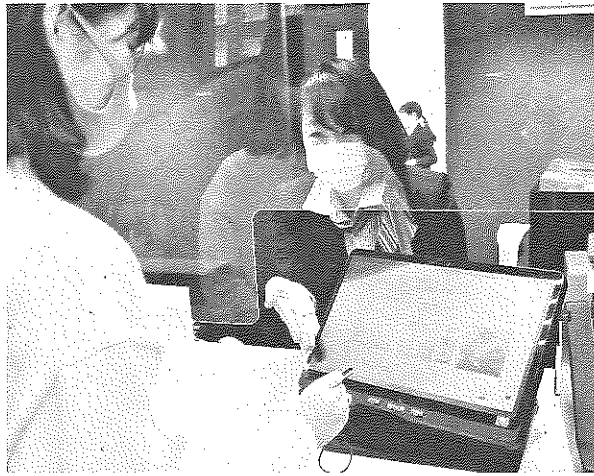
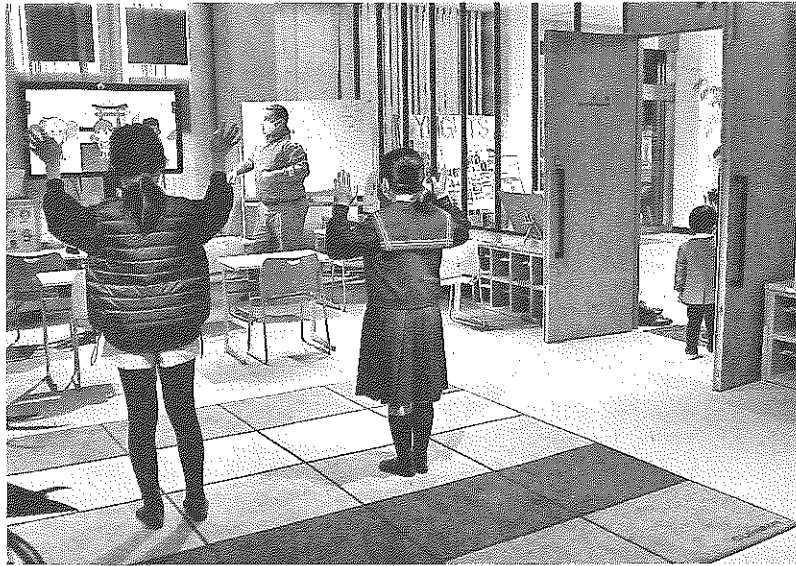
「ハウアユー?」
山口県周南市で1月中旬、中学生らが広々とした部屋でモニターを見ながら、時折、身ぶりを交えて英会話を学んでいた。楽しそうな笑い声も漏れる。部屋があるのは山口銀行徳山西支店内で、扉を隔てた銀行側では行員が業務にいそしんでいた。

住宅ローン業務を担う部署の移転で生じた空きスペースを有効活用するため、地元の学習塾に貸し出した。2020年7月にオープンし、幼稚園児から高校生まで約30人が通う。塾を運営する門出健司さんは「銀行の支店という信用力もあり、生徒は予想以上に集まった」と感謝する。銀行側にも利点がある。河村文武支店長は「顧客からは『活気がある』と好評だ」と話す。見学の保護者ともやり取りする機会を増やそうと、窓口の終了時間は午後3時から同5時に延ばした。住宅ローンの契約につながったこともあったという。

山口銀は他の店舗でも余剰スペースを保育所などに貸し出しており、今後も拡大する方針だ。

地銀の主な店舗改革の取り組み

- 山口銀行** 一部をスペイン風居酒屋や保育所、英語教室に貸し出し
- 福岡銀行** 全支店の窓口にタブレット端末を配備
- 西日本シティ銀行** 法人や個人営業に特化した店舗を開設
- 鹿児島銀行** 本店ビルに現金では買えない飲食できない商業施設を併設



●山口銀行徳山西支店内で開かれている英会話教室。扉の向こうは店舗スペースとなっている(12日、山口県周南市) ●手書きの記入用紙の廃止に伴い福岡銀行の窓口に設置された端末(12日、福岡市中央区)

※1/29現在のレッスン生34名

空きスペース貸し出し/窓口に端末

支払いに現金全キャッシュ的な取り組みが、1日3000人が

地銀が店舗は、人口減少インターネットの普及の現金自動T.M)の普及しているため、全国銀行協会報告書で公認の調査の利用率は13・5%よりスマートフォンのバンキングの利用率は上昇した。

山口銀では、客数が10年4割減つてきた。同様の傾向は、顧客とすれば対面営業、収益に

顧客とやを生み出す

九州・山口に本店を置く地方銀行の店舗数は、減少にある。読売新聞がアンケートしたところ、全19行の数は今年1月時点で計6店と、10年前の2013月末時点と比べて95(50店)減った。経費削減が理由で、中には4割減少した地銀もあった。今後、ふくおかフ、シャルグループ傘下の

モニターが使った調度品

年。新婚旅行の一環で福岡を訪れたモニター夫妻が食事した。